

第2回岡山県医療対策協議会の概要

○日 時：平成19年11月22日（木）15:30～17:00

○場所：県庁3階大会議室

【派遣基準】

- ・対策協議会として派遣についての基準を示し、派遣先を集約することも検討すべきだ。
- ・派遣先が公的な病院ではなく民間の病院に派遣する場合、きちんとした説明が必要である。
- ・市町村や地域で医師会なども含めて協議してもらい決定すれば問題はないのではないか。

【受入体制】

- ・受入体制などが十分でないで派遣された医師が地元の状況を知って失望するようなことがある。
- ・派遣される医師が働きやすい環境づくりが大切であり、病院や市町村も含め受入側の体制や姿勢も重要である。
- ・市町村の医療に対する意識も重要な問題だ。市町村のサポートも重要だ。
- ・市町村や病院だけでなく地元医師会としてもきちんと受入体制ができていることが必要だ。
- ・地元の医療機関同士の協力体制が構築されていると派遣しやすい。
- ・つなぎとしての派遣だけではなく、その後の中長期的なビジョンも必要だ。

【派遣医師】

- ・派遣された人間が不安を感じないような工夫が必要である。
- ・どういう医師を派遣するかが大切だ。救急医療に従事する場合、経験が浅い人はだめだ。
- ・後期研修医なども派遣対象として考えられる。
- ・単独ではなく、指導医と研修医の組み合わせなど、ベテランと若手を組み合わせて派遣した方が対応しやすい。
- ・国の派遣のように、短期間にいろいろな医師が入れ替わり立ち替わり派遣されることは、地域にとっても派遣される医師にとってもよくない。

【その他】

- ・派遣する側とすれば救急医療に的を絞れば議論も絞りやすく話にも乗りやすい。
- ・派遣の枠組みを作り、産科など特定の外来が足りないことがあれば、それに対する派遣も考えたらいいのではないか。